

シンポジウム記録 震災被災地の水産業と漁村の復興

水産環境保全委員会の活動計画とこれまでに実施してきたこと、これから実施すべきこと

河野 博^{1,2}¹日本水産学会水産環境保全委員会, ²東京海洋大学Action plan and operation of the Committee
for Conservation of Fisheries EnvironmentHIROSHI KOHNO^{1,2}¹*Committee for Conservation of Fisheries Environment, ²
Department of Ocean Sciences, Tokyo University of Marine
Science and Technology, Minato, Tokyo 108-8477, Japan*

水産環境保全委員会では、水産学会が4月11日に発表した「東日本大震災からの復興に向けた日本水産学会の行動計画」にもとづき、6月3日に「東日本大震災からの復興に向けた水産環境保全委員会の行動計画」を策定した。この行動計画は、

1. 情報発信（ポータルサイトの立ち上げ等）
2. 情報収集
 - 2-1. 被災地水産関係者との面談等
 - 2-2. とくに、いわき市水産関係者との面談等（放射能関連の風評被害等の調査）
3. 実際の調査（東京海洋大学によるいわき市沖の調査等）
4. 他学会との連携（とくに沿岸環境関連学会連絡協議会での担当者間の連絡）
5. 理事会への要望

の5項目からなっている。

このうち、1.については水産政策委員会で「情報共有システム」を作成中である。また、2-1.や4.に関しては、現在調査を継続中あるいは情報を交換しているところである。

そこで本シンポジウムでは、2.の情報収集のうち、

本委員会の委員から得た情報について紹介し、さらに3.の調査の概要を説明する。現在、現在水産環境保全委員会がおこなおうとしている調査として「三陸沿岸の湾の水質調査」を計画しているので、その概略についても紹介する。

まず、震災後2か月くらい後の時点では、いわゆる survival のための援助が中心であった。そのため、本委員会の活動というよりも、個人的に、あるいは（所属する組織の）組織的な様々な援助が実施された。

本委員会ではまず、情報収集として被災した委員の方々からの情報を得た。北里大学の佐藤（繁）委員からは震災当日から数日にかけての緊迫した学生との避難について、ご多忙な中、情報を本委員会の委員の先生方に配信していただいた。さらに東北大学の大越（和）先生からは、当初の混乱した状態から徐々に落ち着いて、学内プロジェクトの立ち上げたことについて情報をもたらしing いただくとともに、その後も先生には水産学会の震災復興支援拠点としての役割を果たしていただいている。これらの情報に関しては、震災後数か月間の委員の先生方の個々のいろいろな支援活動に活かされたものと確信している。

3.の調査は、東京海洋大学が福島県と共同で海鷹丸の緊急航海として実施したものである。漁場環境調査と定線観測支援、さらに生態系を網羅した放射性物質の測定を目的とした。得られたデータについては、現在東京海洋大学の石丸隆委員によって解析されている。

現在、水産環境保全委員会では、これからの「復興」を視野に入れた活動が重要であるという認識のもとに、いくつかの研究計画を立てている。一つは渚の生物を用いた化学物質の汚染評価であり、九州大学の太嶋委員が中心になって進められている。また、個人的にはあるが、各種の調査研究助成の申請をおこない、水産環境保全に関わる調査研究をおこなおうとしている。